

県・市町職員でドローン講習

災害調査などの活用目指す

県まちづくり技術センター

県まちづくり技術センター（吉村文章理事）は8日、建設事業を担う県や市町職員を対象にした「ドローンを活用した災害調査に関する技術講習会」を神戸総合運動公園のグリーンアリーナ神戸で開催した。II写真。

されている。

研修では、プロポと呼ばれる送信機を使い、空中で静止するドローンを2つの制御スティックで操縦した。講師の指導のもと、実機を前後や左右に動かして、広い範囲を撮影できる扇状飛行、映像だけで操作する目視外飛行など実践的な技術も体験した。

ドローンはカメラなどを搭載した小型の無人飛行機。軍事目的で開発されたが、建設分野では空からの写真測量や災害時の状況把握、社会インフラの点検など幅広い活用が期待されている。

参加した県道路保全課の職員は「飛行中の撮影方法を細かく教えてもらえたほか、基本的な操作はうまくできた。屋内で風の影響を気にせずに体験できたので良かった」と話していた。



1日に実施した法規制や活用法などを学ぶ基礎習得に続き、実際にドローン

に参加した。屋内の回ア

で行われるのは初めて。

参加した県道路保全

課の職員は「飛行中の撮影方法を細かく教えてもらえたほか、基本的な操作はうまくできた。屋内で風の影響を気にせずに体験できたので良かった」と話していた。

兵庫ジャーナル1879号
12月20日掲載